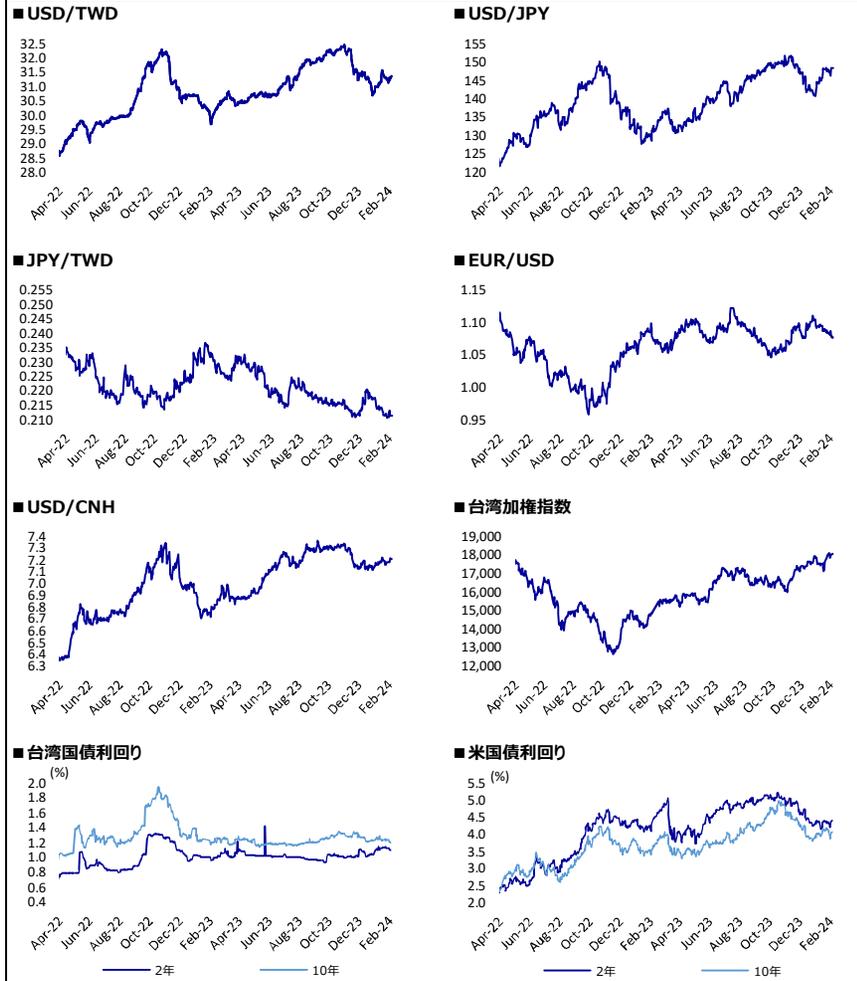


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/29は31.300でオープン後、台湾加権指数が約2年ぶりの高値を更新する中、外国人投資家による台湾株買いが見られたことで、台湾ドル買いが進み31.20台半ばまで下落した。1/30は、31日にFOMCを控える中、米国における利下げ議論の進展への期待感から米金利が低下する中、ドル売りが進み一時31.136まで下落した。1/31は、米国ハイテク企業業績市場予想対比弱い結果となったことを受けてリスクセンチメントが悪化し、台湾ドル売りが優勢となり31.30近辺まで上昇。2/1は、前日海外時間に米国株が下落していたことを受けて台湾株も上値重く推移していたことから、台湾ドル売りが進み一時31.370まで上昇した。2/2は、前日海外時間に発表された米第4四半期単位労働コストが軟調な結果となったことを受けて米金利が低下していたことから、ドルが売り戻され、31.20近辺で推移した。最終的には前週比0.2%ドル安台湾ドル高の31.243で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は390.0億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初1/29は148.12でオープン後、今週日本国債入札を控え円金利が上昇する中、円買いが優勢になり147円台半ばまで下落した。1/30は、米12月求人数が市場予想を上回る結果で発表され、米利下げ観測がわずかに後退しドル買いが優勢となり147円台後半で推移。1/31は、日銀から発表された主な意見で「政策修正の要件は満たされつつある」との見解が示された他、米1月ADP雇用統計や米第4四半期雇用コスト指数が市場予想を下回る結果となっていたことを受けて、ドル売りが進み146円近辺まで下落。しかしその後、FOMCにてパウエル議長より「インフレ低下を確信するまで利下げしない」とのスタンスが示されると、147円台近辺までドルが買い戻された。2/1は、発表された米第4四半期短労働コストが市場予想を下回る結果となったことを受けてドル売りが進み、一時145.90まで下落した。2/2は、海外時間に米1月雇用統計が発表されると、非農業部門雇用者数、失業率、平均時給すべての項目が市場予想対比強い結果となり、米国早期利下げ期待が大幅に剥落し、ドル買いが優勢な展開に。一時148.58まで上昇した。最終的には前週比0.2%ドル高円安の148.40で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：31.250-31.550  
今週は底堅い推移を見込む。台湾における長期休暇を前に、外国人投資家による投資活動が鈍化する場合、台湾ドル買い圧力が弱まりやすいであろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：146.50-149.50  
今週は上値の重い推移を見込む。米経済は堅調ながら、米追加利上げが期待されない環境下、再度150円を突破し円安が進むことは難しいであろう。

今週の予定

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| 2/5 (MON) |                   |
| 2/6 (TUE) | 台湾1月CPI           |
| 2/7 (WED) | 台湾1月貿易収支、米12月貿易収支 |
| 2/8 (THU) | 台湾休場              |
| 2/9 (FRI) | 台湾休場              |

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。